

特集：入学

若い時こそチャレンジを！

三浦 謙治（筑波大学 生命環境系）

新入生の皆さん、またご家族の皆様、ご入学おめでとうございます。今は大学での生活に期待が膨らんでいることと思います。是非ともその初心を忘れずに大学生活を過ごしてください。また、新たに一人暮らしを始めるケースも多く、不安に感じることもあるかと思いますが、期待に思うこと、不安に思うこと、相談したいこと、担任として最大限の配慮をしていきたいと思っています。

将来はこうなりたいと確固たる目標をもって生物学類に入学された方も、生物の点数が良かったから筑波大学の生物学類にトライしたという方もいると思います。どちらが良い悪いという問題ではありませんが、一番良くないのは、ただ漫然と過ごすということだと思います。まず将来こうなりたいという目標を持っている学生さんには、その分野を追及するという事は非常に大切です、大学はそういうことができる場所です。ですので、大いに大学という場を活用して下さい。だからと言って自分の知りたい分野だけの勉強で良いかというそれは違うと思います。まだ若く頭脳も柔軟なうちに他の分野も吸収するように心がけてください。知らないことは選択できないですし、様々な知識の有機的なつながりによって発想というのは湧いてくると思います。それこそが、筑波大学が目指す未来創造型人材だと思います。次に成績的に筑波大学をトライしたという学生さんもいるでしょう。そのような学生さんには自分の目で見て感じて、自分で考えるという力を養って欲しいと思います。その中で自分はこれが得意だったとか、このようなことをしてみたいということが出てくると思います。そうしたら、その目標に対して情報を集めるということをしていけば良いと思います。世の中が便利になって様々な情報が簡単に手に入る時代だからこそ、情報に踊らされることなく取捨選択するという事を心掛けてほしいと思います。

私が大学に入学したのはかれこれ20年前になりますが、私自身、はっきりとした将来像があって大学に入ったかというところでもありませんでした。どちらかという成績と知名度で大学を選んだと思います。大学1、2年生の頃は自分がきたところは本当にここで良かったのかと迷うこともありましたが、実は私は、一念発起をして3年生になる際に転学部をしました。今思うとチャレンジングなことをしたと思いますし、良く転学部できたなと思います。大学とはある意味チャレンジを許容してくれる場所だと思いますし、皆さんにも色々チャレンジをして欲しいと思います。転学部を勧めている訳ではなく、例えば交換留学生として海外で勉強するというのも大いにチャレンジングなことです。大きなことでなくても、今日は授業でやっていないこの分野を極めたということもチャレンジだと思います。チャレンジする姿勢は視野を広げる上でも非常に重要なことだと思います。大学とは受け身の姿勢で日々を過ごし、単位を取りさえすれば無事4年間を終了して卒業することもできます。但し、自分で考え、小さなこと

でもチャレンジしていく姿勢をもつことで卒業する際には人間的な成長というか深みというか、目に見えないオーラのようなものを身につけることができると思います。是非とも皆さんには、4年後の卒業時には「入学時は初々しかったけど、4年経つと立派に成長したな」と言わせるようになることをお祈りしています。

最後になりますが、私が大学院生時代に所属した研究室の大山教授に「来たバスに乗りなさい」という言葉を頂きました。これからの人生で色々な選択をする場面があると思います。本当にこれでいいのかと躊躇することもあると思います。但し、一步踏み出してみないと状況は変わりません。そのための言葉だと思います。ただ、1つこの言葉の本当の意味を注意しないといけないのは、受け身で待っている「バスは来ない」ということです。だから私は、この言葉に「バス停に行く努力をしなさい」を付け加えたいと思います。バス停に行く、つまり目標をもって自分を磨くということ。行き着いた場所がバス停でないこともあるかもしれません。ただそこで諦めるのではなく、新たなバス停を探すこと。来たバスが自分の思い描く目的地と違ったとしても、そこから見える景色で新たな目的地を見つけられる可能性もあります。時には失敗することもあるかもしれませんが、まだ皆さんはやり直しがきく歳です。大成功を収めている偉人の多くは失敗をしています。ただ彼らは失敗から何かを学んで成功を収めています。私は関西に長いこと住んでいたのですが、関西人はいいこと言っています。「転んでもただでは起きるな」と。失敗を推奨しているわけではありません。要は出かけて行ってベストを尽くせということです。ベストを尽くせばちゃんと答えは返ってきます。どこかで聞いた偉人の話ですが、「本当の失敗はやって失敗することではなく、実際に行動を起こさないこと」だそうです。4年間という長いように思えて、意外とあっという間に過ぎます。日々を大事に、皆さんの4年間が実り多いものでありますように。

Contributed by Kenji Miura, Received April 23, 2013.